

2026_0409「池袋から見た小川三山の山」日々の理科 4260号

お茶の水女子大学 サイエンス&エデュケーション研究所 田中 千尋

池袋から西の空を望むと、都市の背後に連なる奥武蔵の山嶺が、思いのほかくっきりと浮かび上がって見えます。視線を北へとたどっていくと、山並みの右端に、わずかに尖った特徴的な山が現れます。これが「笠山」です。埼玉県小川町からよく望まれる「小川三山」の一つで、地元では「か」にアクセントを置いた独特の呼び方で親しまれています。素朴ながらも印象に残る山容は、遠望でもすぐにそれと分かる個性を持っています。

その左隣に続くのが、なだらかに広がる「堂平山」です。山頂部が平坦に見えるため、笠山との対比がいつそう際立ちます。地元では「堂平（どうだいら）」と簡潔に呼ばれ、日常の風景の一部として親しまれてきました。山頂にわずかに突き出して見える構造物は、かつての東京天文台の観測ドームで、現在はときがわ町の天文施設として活用されています。

こうした山々や人工構造物が、直線距離にして数十キロも離れた池袋から明瞭に視認できるという事実には、あらためて驚かされます。大都市東京は、高層建築が立ち並ぶ一方で、空気の澄んだ日には遠方の地形までも見渡せる「望岳都」としての一面を、静かにたたえているのです。

